

# 令和元年度 あべの翔学高等学校 学校評価

## I めざす学校像

### 1 人徳を経とし実務を緯とする

人徳と実務を兼ね備え、将来、社会で貢献できる生徒を育成することを建学の精神とし、「立志、礼節、誠実、勤勉」を校訓とする。

### 2 学力だけでなく「こころ」の面での成長を大切にし、生活指導面での厳しくもきめ細やかな指導をととして社会生活に適切に対応し、活躍できる教育活動を実践する。

## II 中期的目標

### 1 学習指導

十分に基礎学力が備わっているとは言えない生徒が散見される。基礎学力の定着を図る。

### 2 進路指導

生徒・保護者の希望、本人の実力を勘案して、適切な進路指導を行う。

### 3 生徒指導

基本的な生活習慣の習得

### 4 生徒会・クラブ活動への積極的参加

生徒会(学校行事)、課外活動を通じ、勉学との両立を図りながら、秩序・リーダーシップ・協調性等のチームワークや人間関係の育成を図る。

### 5 保護者との一体教育

保護者とのコミュニケーションを一層密にし、適切な学習指導、進路指導、生徒指導等を行う。

### 6 安全管理

災害意識を高め、火災のみならず、地震・津波などの緊急時対策を図る。

また、救急救命の知識向上に努める。

## III 本年度の取組内容及び自己評価

中期目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価																
1 学習指導	(1)基礎学力の定着	a 学期初の習熟度調査による習熟度別個別教育実施	a 学期最初の実力テストから期末実力テストへの成績向上を目標にあげる。	1年生の国語、数学、英語の3教科については1学期末考査から学年末考査への成績は以下のとおり平均点の上昇は見られなかったが、得点バラツキは少なくなり全体のレベル上昇に繋がったと評価できる。※平均点/標準偏差 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1学期</th> <th>2学期</th> <th>学年末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国語</td> <td>51.1/16.2</td> <td>52.3/18.5</td> <td>53.3/16.0</td> </tr> <tr> <td>数学</td> <td>61.8/18.9</td> <td>54.7/19.7</td> <td>59.3/17.5</td> </tr> <tr> <td>英語</td> <td>53.7/13.9</td> <td>46.9/17.0</td> <td>51.6/14.3</td> </tr> </tbody> </table> 基礎学力は身に付けてきているので、今後は個人別に弱い分野を見極めて、学習指導出来るように体系立てて指導してゆく。		1学期	2学期	学年末	国語	51.1/16.2	52.3/18.5	53.3/16.0	数学	61.8/18.9	54.7/19.7	59.3/17.5	英語	53.7/13.9	46.9/17.0	51.6/14.3
	1学期	2学期	学年末																	
国語	51.1/16.2	52.3/18.5	53.3/16.0																	
数学	61.8/18.9	54.7/19.7	59.3/17.5																	
英語	53.7/13.9	46.9/17.0	51.6/14.3																	

2 進路指導	(1)進路指導対策の早期実施	a 進路希望調査の早期開始、早期対策	a 四年制大学進学率向上	<p>令和元年度(令和2年3月卒業)の進路結果は以下のとおり。</p> <p>進路先 人数(構成比) [対前年]</p> <p>大学 57名(27%) [△16%]</p> <p>短大・専門 108名(50%) [+ 8%]</p> <p>就職 30名(14%) [+ 5%]</p> <p>未定 20名(9%) [+ 3%]</p> <p>合計 215名(100%)</p> <p>前年に比べ四年制大学進学者が16%減少しており、逆に短大・専門・各種学校進学が8%増加しているが、進学者全体としても前年比8%の減少であった。</p> <p>生徒数増加に反して進学者比率が落ち込まないよう、生徒一人ひとりの目標設定を明確にし、きめ細かな進路指導に努めてゆく。</p>																
	(2)関西圏私立大学への知名度向上	a 関西難関私立大学、有名私立大学への進学者数	a 大学進学者の内、一定数以上	<p>近畿大学への進学者を2名輩出した。(大学進学者数の3.5%)</p> <p>更なる増加を目指してゆく。</p>																
3 生徒指導	(1)基本的な生活指導の習得	<p>a 遅刻指導強化期間の設定</p> <p>b 服装、身嗜み指導の徹底</p> <p>c 人権教育の徹底</p>	<p>a 遅刻回数の削減に努める</p> <p>b 通学路立ち番指導 100%</p> <p>c 人権教育回数</p>	<p>遅刻回数の学年別推移は以下のとおりである。(回/人年)</p> <p>[ ]が令和元年度実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1年次</th> <th>2年次</th> <th>3年次</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3年</td> <td>11.4</td> <td>19.5</td> <td>[23.7]</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>11.0</td> <td>[19.3]</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>[12.4]</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>各学年とも前年度に比較して遅刻回数が増加しており、目標である10回/人年以下には至っていない。特に2年生以降において気の緩みが顕著となってきている。</p> <p>今後は、2年時のモラル向上を図るため指導を徹底する。</p> <p>人権教育については目標を達成できていると思われるが、教員の目が届かない休憩時間でのいじめ等の防止に努めることとする。</p>		1年次	2年次	3年次	3年	11.4	19.5	[23.7]	2年	11.0	[19.3]	—	1年	[12.4]	—	—
	1年次	2年次	3年次																	
3年	11.4	19.5	[23.7]																	
2年	11.0	[19.3]	—																	
1年	[12.4]	—	—																	

4 生徒会・クラブ活動	(1)クラブ活動の活性化	a クラブ参加率の向上  b 市大会、府大会等での成績向上	a 軟式野球部、軽音楽部、吹奏楽部の大会成績向上	運動系クラブでは、軟式野球部が令和元年度全国大会と第74回国民体育大会に出場し、何れも準決勝進出という輝かしい成績を収めました。 文化系クラブでは、吹奏楽部が関西吹奏楽コンクールにおいて金賞ゴールドを受賞しました。 これらの功績により、他の運動部、文化クラブにおいても生徒達の毎日の練習に対する取組が変わってきています。
5 保護者との一体教育	(1)保護者とのコミュニケーション緊密化によるきめ細かな生徒指導	a 保護者懇談週間開催時期の見直しにより、生徒、保護者との懇談内容充実 b 保護者との信頼関係強化	a 保護者懇談週間時期・回数 時期：6・11月 回数：2回 b 保護者集会等開催回数	a 保護者懇談会は、年2回実施。 b 保護者との間に齟齬があったため、保護者説明会で状況説明してきた。今後も保護者との意思疎通を図り、校内外での教育環境確保に努める。
6 安全管理	(1)人命の尊さに対する意識高揚	A 避難訓練実施による危機管理教育の実施 b 救急救命講習の実施による人命救助教育の実施	a 地震避難訓練の実施 年2回実施 出席率90% b AEDを使った救急救命教育の実施 出席率90%	校舎外壁のブロック塀を金網フェンスに改修し、地震災害対策を完了した。なお、運動場のブロック塀は令和元年度に改修を完了した。 火災避難訓練を実施。引続き1回/年以上の実施を検討する。

#### IV 総合評価

評価	自己評価	次年度の改善方針
C	軟式野球部が全国大会と国民体育大会共に準決勝進出、吹奏楽部が関西吹奏楽コンクールで金賞ゴールドを受賞するなど、活発なクラブ活動が実績として現われてきたことは大いに評価できる。 一方、遅刻回数は依然として低水準であり、大学進学状況も進学率が低下しているなど、生徒の生活態度と学ぶ姿勢を改善する必要がある。	遅刻指導、進路指導、テスト返却などあらゆる場面において生徒一人ひとりと面談を行い、生活面・学習面での姿勢を改善して行く。

#### V 学校関係者評価

今年度の重点目標	学校関係者評価委員会意見	次年度の改善方針
基礎学力の定着	各生徒の中学校で養ってきた基礎学力は向上していると思います。生徒一人ひとりの不得意教科、分野を克服できるよう指導をしてください。	各生徒の学力に応じたきめ細やかな学習指導をお願いする。

進路指導	関西難関私立大学への合格者が出てきたことは大きな成果と思います。 1年生の時から努力は必ず報われることを教えて頂き、苦手教科対策、受験教科対策などを更にお願ひします。	先輩の成功事例を後輩に伝えてゆく等、新たな校風を築いていくよう願ひします。
生徒指導	基本的な生活習慣が出来ていない生徒が多くいます。遅刻する生徒への罰則強化ではなく、高校生として身に付けるべきルールと、そのルールに対する考え方を教えて頂きたいと思ひます。	昨年と同様、一部の生徒に遅刻が偏っている感がある。 罰則の強化だけでは生活習慣の改善には結びつかないと思われる。生徒個別のフォローアップを願ひする。
生徒会・クラブ活動	軟式野球部、吹奏楽部は地区大会で優秀な成績を挙げることが出来た。先生の熱心なご指導に感謝します。	スポーツ専攻科の新設が運動系クラブの活躍を生んで行くと思ひます。活気ある校風の醸成に期待しています。
保護者との一体教育	「Webでお知らせ」は連絡手段としてしか利用されていないと思ひます。	「Webでお知らせ」を有効活用し、学校・保護者間での双方向コミュニケーションツールとして活用していけば良いと思ひます。
危機管理	災害対策、避難マニュアルなどは学校、生徒にも充分周知されてきたと思ひます。	不審者侵入対策、防犯対策について施設管理に留まらず、地域をあげた危機管理強化活動を推進して頂きたい。
総合評価	個々の評価項目に問題はないが、指導体制の観点からは、教員の入れ替わりが激しく、生徒の学習状況、生活指導等が十分に引き継がれていかないことを懸念します。また、中堅以上の教員数が少なく経験の少なさも懸念材料です。 中長期的な人財確保、育成に基づいた指導体制の確立を願ひします。	優秀人財の確保と育成を行い強固な指導体制を願ひする。

#### 学校関係者評価委員会構成

- 評価委員長 :あべの翔学高等学校PTA会長  
 評価委員 :あべの翔学高等学校呉竹同窓会会長  
 評価委員 :奈良佐保短期大学キャリア支援センター長